

# 未来に向けて



太平洋戦争末期、本市知覧の木佐貫原の台地には、本土最南端の陸軍特攻基地である知覧飛行場が置かれ、爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たり攻撃を行う、「特別攻撃隊員」として多くの若者たちが沖繩に向けて出撃しました。

知覧飛行場の歴史は、昭和16年12月の大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所の開設に始まります。当初、航空要員の養成のため建設された飛行場は、昭和20年春以降、戦況の悪化により実践部隊が駐留していました。終戦までに陸軍沖繩戦での特攻戦死者1036人のうち、約半数にあたる439人が出撃することになりました。

今回は、開館から今年で35年を迎えた知覧特攻平和会館のこれまでと、これからについて紹介します。

## 知覧特攻平和会館のあゆみ

昭和50年、特攻戦死された隊員の当時の真の姿、遺品、記録を後世に残し、恒久の平和を祈念することが、基地のあった住民の責務であると信じ、いのちの尊さ、平和の大切さを伝えていくことを目的として、特攻遺品館が造られました。寄贈される遺品や関係資料が年々増え、入館者数も増加したことに伴い、昭和62年に知覧飛行場跡地の一角に現在の知覧特攻平和会館が建設されました。その後、展示室や収蔵庫などを増設し、現在に至っています。

資料の展示だけでなく、語り部による特攻隊に関する講話も行っており、開館からこれまで2千万人を超える方に入館いただいています。

## これまでの取り組み

1万6千点を超える収蔵資料の内容は、遺書や手紙などの紙資料のほか、寄書きが書かれた日の丸や軍服などの布資料、戦闘機など多岐にわたります。これらの資料の状態調査を計画的に行うとともに、必要に応じてレプリカ作成や修理を行っています。また、一人一人の隊員に焦点を当てた企画展の開催、遺書や手紙の活字化を行うなど入館者により深く理解していただけるように努めているほか、調査研究の成果をまとめた紀要の刊行、ホームページでの情報発信も積極的にを行っています。



昭和57年特攻遺品館改装



四式戦闘機「疾風」状態調査

## 未来に向けて

悲惨な戦争のニュースが飛び込んでくる中、日本では終戦から77年が経過しました。戦争体験者も少なくなり、戦争を知らない世代に、どう語り継いでいくかが課題となっています。

ご遺族のご理解とご協力、関係者の方々のご尽力により収蔵された資料は、当時の様子を知ることができる貴重なもので、当館が果たす役割は年々増えています。本市は7月に国立文化財機構東京文化財研究所と共同研究の覚書を締結し、戦争遺跡である給水塔の保存と活用に向けた調査も開始しました。

これまでの取り組みを継続しながら、今後も収蔵資料の適切な保存と入館者により満足していただける展示を心掛け、史実をありのままに、平和といのちの尊さを伝えていけるよう努めてまいります。



館内説明を行う板津忠正初代事務局長

知覧特攻平和会館

学芸員 羽場 恵理子



私は、令和2年4月  
月から知覧特攻平和会館  
管理組合の学芸員として  
勤めています。中学生のころ  
歴史の授業や父の影響で日本史の面白さに目覚め、「将来は学芸員になりたい」と強く思うようになりました。学芸員になる夢をかなえるため、大学院の修士課程まで進学し、日本近代史を深く学びました。現在、その知識を生かして日々の業務に励んでいます。

学芸員は、資料と来館者をつなぐ役割を持つ職業だと思っています。そのため、来館者の皆さまに興味・関心を持っていただけるように、年3回行う企画展を作成するときは、来館者の視線に立ち、分かりやすい表現を心掛けるようにしています。

また、知覧特攻平和会館に入ってから、学芸員の業務として「後世まで資料を残していくこと」の重要性を痛感しています。知覧特攻平和会館では、資料の保存状態調査や館内環境調査など、資料の劣化を防ぐためにさまざまな事業を行っています。地道な作業ですが、長い期間をかけて調査結果を収集することで、資料の性質を把握し、保存につなげることができるのです。

まだまだ学芸員としては新米の私ですが、知覧特攻平和会館で特攻の史実を正しく語り継いでいくために、頑張っていきたいと思っています。



遺品室



企画展の様子

「米国国立公文書館調査報告展

COMBATING KAMIKAZE —特攻作戦を分析した米軍—

会期：2022年11月3日(木)

～2023年1月31日(火)

会場：知覧特攻平和会館 企画展示室

昭和20(1945)年3月26日から始まった沖縄での陸軍特攻作戦は、当時沖縄戦に参加した米艦船によって記録され、それを基に作成したと思われる対特攻作戦の映像が米国国立公文書館に保存されています。本企画展では、知覧特攻平和会館が入手した映像の分析を行い、「米軍視点から見た特攻」を伝えるものとして紹介します。



米国国立公文書館所蔵資料より